

# 移築されて今も残る観測機器(東京天文台)



昭和35年頃:東京大学 天文学教室と日本経緯度原点

麻布にあった東京天文台が三鷹に移転した後、東京大学天文学教室が設置された、写真⑩番の部分に建つ碑(左下写真)が現在、経緯度原点の場所と考えられる。手前側はアフガニスタン大使館になっている。



平成25年(2013年):日本経緯度原点

現在の経緯度原点、整備され素敵な空間が広がっている。東京都港区麻布台2-18-1



昭和35年頃

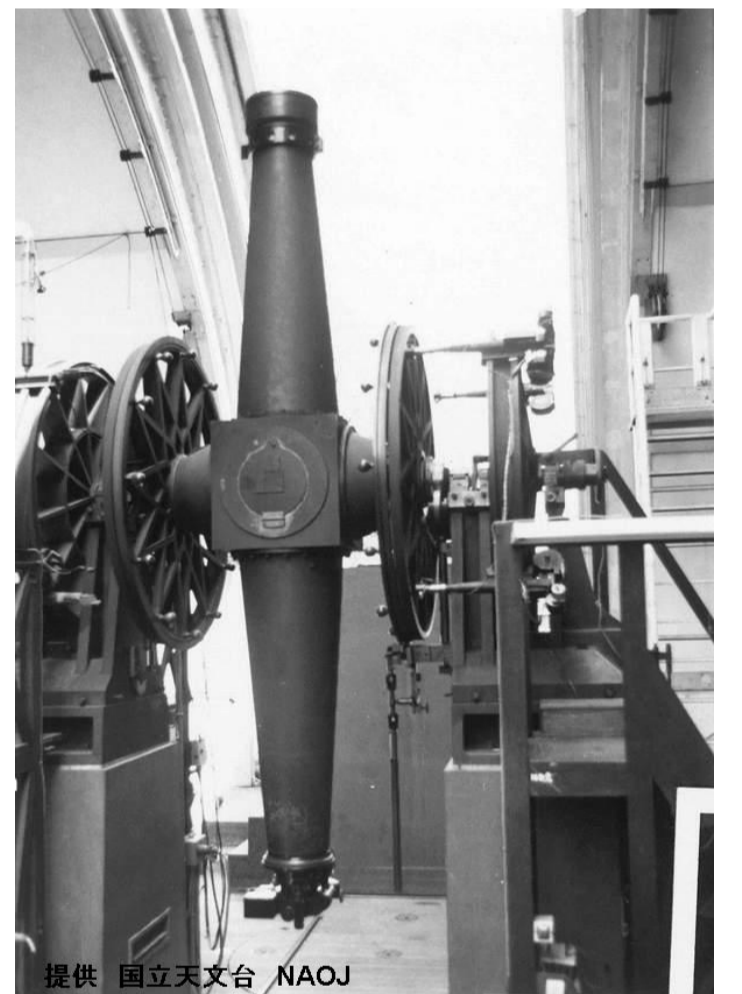
この二つの柱の上に、観測機器が設置されていた。設置されていた観測機器は、関東大震災で被害を受けたが当時、東京天文台で使われていた機器は今でも三鷹の国立天文台に大切に保存され一般に公開されている。



ゴージェ子午環  
1903年フランス製



レプソルド子午儀室



レプソルド子午儀、国立天文台初の国の重要文化財  
1880年ドイツ製

東京天文台は明治21年(1888年)、麻布飯倉の旧海軍観象台の地に設立。初代の台長として寺尾 寿が任命された。明治23年(1890年)から子午儀室をはじめ太陽写真儀室、赤道儀室など次々と増築された。

その後、市街化が進み観測条件の悪化が進み、大正6年(1914年)北多摩郡三鷹村大沢(現在の三鷹市)に移転が始まり、大正13年(1924年)に一段落した。その後の建物・観測機械は東京大学理学部天文学教室の所属となり学生の講義・実習にあてられた。昭和20年(1945年)、戦災で焼失。その跡にバラックが建てられて、昭和35年(1960年)の本郷移転まで、この地に存続した。

日本経緯度原点は明治25年(1892年)に東京天文台の経緯度の観測台である子午環の中心に定められた。

その後、大正12年(1923年)の関東大震災で子午環が崩壊したため、昭和36年(1961年)にその位置に金属標を設置し日本経緯度原点を再現した。昭和24年(1949年)、原点数値は測量法施行令で規定され、わが国における経緯度の基準として測量、地図作成等に使用されている。

なお、日本経緯度原点は平成23年(2011年)3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震により真東に27cm移動したことが記され、その数値は平成23年10月21日に改定されました。

(経度:東経 139° 44' 28" .8869、緯度:北緯 35° 39' 29" .1572、方位角:32° 20' 46" .209)

写真提供:国立天文台(NAOJ)、資料提供:国土交通省国土地理院(GSI)